



## 第 17 回 CLC 大阪サロンのお知らせ

「薬物依存から回復支援者へ～地域でどう支えるか」

ゲストスピーカー

Freedom コーディネーター

大阪ダルク ピア・カウンセラー

倉田 めば さん

薬物などの依存は病気。誰もがその当事者となる可能性を秘めていることを、あなたは知っていますか？

第 17 回 CLC 大阪サロンでは、Freedom のコーディネーター・倉田めばさんをゲストにお迎えします。倉田さんは、以前、シンナーによる薬物依存症に悩み、苦しんでいました。現在は、経験を生かし、回復支援者として、当事者や家族の社会生活を支えています。「薬物で逮捕され、刑務所から出所するときに、薬物依存者はどこに行けばいいのか。そのサポートやケアが現状ではまったくない」と倉田さんは言います。

「薬物依存からの本当の回復は、本人が薬物を欲すれば手に入れることのできる地域の中でしかできない」と語る倉田さん。社会資源を模索しながら、当事者を支え続ける倉田さんのお話から、地域へのアプローチのヒントを一緒に学んでみませんか？

日 時：平成 16 年 7 月 21 日（水） 18 時 30 分～20 時 30 分

会 場：東淀川勤労者センター 第 2 会議室 TEL：06-6321-0001

大阪市東淀川区東中島 4-4-4（新大阪駅・崇禅寺駅より徒歩 10 分）

参加費：会員 1,200 円 一般 1,500 円（会員価格は 1 会員様に対し 1 名様のみ有効です）

定 員：40 名（先着順・定員になり次第締め切ります）

申 込：TEL & FAX：06-6466-3740 e-mail：clc-osaka@clc-japan.com

なお、電話でのお問い合わせは月・木・金にお願いします。 担当：宇城（うじょう）

主 催：NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）大阪

全国コミュニティライフサポートセンター（略称 CLC）は、“誰もが地域で普通に”暮らせる地域社会を目指して 1999 年に発足した NPO です。2001 年 2 月に法人化した後も、子ども、障害者、高齢者分野を問わず新たな挑戦をしている全国の取り組みを紹介しながら各地でネットワークづくりを進めてきています。大阪事務所は 5 つ目の拠点となります。

申込者			
住 所	〒		
電話番号	( ) -	Fax 番号	( ) -
勤務先（所属）			
交流会(新大阪) 加ノ後約 2 時間	出席・欠席（会費約 3000 円）	ご入会頂いている ものがあれば 印	JUNTOS 賛助 / 宅老所グループホーム全国ネットワーク 特養・老健・医療施設ユニットケア研究会 / CLC

## 倉田 めば(Meba Kurata)

Freedom コーディネーター。大阪ダルク代表。薬物依存回復施設、大阪ダルクを10年前に設立。解毒後の薬物依存者の手助けを主体に活動が続けてきたが、2001年7月、大阪ダルクが大阪市精神障害者小規模作業所として認可されたのを機に大阪ダルクの向かいにオフィスを構え、新団体「フリーダム」を多くの賛同者とともに設立。薬物依存症からの回復支援を多角的に捉え、新たな社会資源を作り出すために奔走している。薬物依存当事者。

**大阪ダルク** 全国26ヵ所に展開する民間の薬物依存回復施設のひとつ。1993年に開設された。2001年7月より、大阪市精神障害者小規模作業所として再スタート。精神病院、拘置所、刑務所を退院、出所した薬物依存者に、デイケアで、グループミーティングを核としたプログラムを提供、また、「アルパ」「女性ホーム大阪」「ティータ」という入所施設での共同生活、ナイト・ケアのプログラムもある。

**Freedom** 大阪ダルクが作業所として認可を受けるまで、大阪ダルクの後援母体であった大阪ダルク支援センターの新名称として2002年3月に新団体として発足。ダルクへの側面からのフォロー、家族の来所相談、拘置所に収監中の薬物依存者へのインタベンション・プログラム、関西でのダルク新設のコーディネート、資金の捻出等、活動範囲の拡大を模索中。

### キーワード1「治療共同体」

NA(ナルコティクス・アノミマス=薬物依存症の自助グループ)、ダルクなどで、当事者のピアサポートを通じて支えあい、薬物を使わないクリーンな人生を歩んでいく場のこと。「セラピューティック・コミュニティ」ともいいます。「このような場があることで、薬物依存からの回復と人間的な成長が可能になります。自分のことを分かってくれる人がいる、共感してくれる人がいることで、心を開き、正直になれるんです」そう倉田さんは語ります。

### キーワード2「立場を超えた支援」

司法的モデルでは、薬物依存者は「意思が弱いから依存する」と言われます。しかし、医療的・社会的モデルでは、「依存は意思ではコントロールできない、病気である」と考えられています。当事者やその家族を支えていく上で、解釈の違いが混乱を及ぼすことも考えられます。司法、医療、社会的立場などを超えて、一人のコーディネーターが一人の薬物依存者を支える、そういった支援が日本でも必要とされています。

## 第16回サロン「宅老所の実践から見える地域～今、共生を考える」 ミニ再録

講師：特定非営利活動法人 地域活動ステーションぬくもりの家 理事長 高木玲子さん

兵庫県川西市の清和台地区で始まった福祉モデル「福祉デザインひろば」は、誰もが気軽に困ったことを相談できる窓口があるそうです。「病気になったときに、子育てはどうすればいい?」「実家の親はどういう生き方を選ぶのかな?」漠然とした不安が、いつか現実になることを思いつつも、いざというときにどこで何をすればいいのか、分からずにいる自分の思いを、ありのままに相談できる場所であるのだと、高木さんのお話から感じました。

「一度お預かりしたら笑顔で帰っていただき、近所の人からいつも笑い声が響くところだね、といわれています」というぬくもりの家。「みんなで輝く共生のまちづくりは、町全体でやっていくこと」と語る高木さんから、明日へのエネルギーをいただいた、そんな会合でした。(E)

## 今月のこんなところで書籍案内

### 「地域生活応援誌 JUNTOS【ふんとす】VOL17～おいしい喫茶店&レストラン」

\*CLC発行/A4版/64ページ/600円(税込)

「特集：おいしい喫茶店&レストラン～憩いの場、就労の場、交流の場」では、町中のオシャレなレストランを総力取材。この号で紹介するレストラン&カフェでは、高齢者やさまざまな障害を持つ人が生き生きと働いていて、地域の人々の憩う場にもなっています。自然派レストラン、ワイナリー、家庭料理にフレンチまで、全国8ヵ所をおいしく楽しく掲載しています!(こちらの本は、サロン当日、会場でも販売しております)